

藤田参与が優良看護職員表彰

6月14日に開かれた茨城県看護協会の総会で、優良看護職員として藤田尚代参与が表彰されました。「私のような賞をもらっているのかと思う反面、本当にうれしいです」と話していました。

「子供のころから人の世話をするのが好きで、何か人の役に立つことをしたい」と看護師を目指し、真壁医師会准看護学院を卒業、すぐに結城看護専門学校に入って看護師の資格を取り、城西病院に入職、看護師として務めてきました。

看護の現場でさまざまな状況に出会うとともに、県看護協会では、県西地区理事を2年間務めたほか、看護労働環境改善事業員会にも所属。活発な活動を行ってきました。

「看護師として今も忘れられないのは、ターミナルケアの患者さんと出会ったとき。本人や家族の思いを聞き、チームとしてその思いをかなえようと、看護をしました。その患者さんは亡くなりましたが、家族からはお礼の言葉をいただきました。この患者さんとかかわり、看護の基本に立ち戻ることができました」



と振り返ります。

県看護協会の委員会では、ほかの病院を訪問して取材し、協会報を通じて多くの人に働き方の改革を伝えてきました。「ちょうど、看護協会で委員会活動をしていたのが看護部長の時でした。ワークバランスについて、ほかの病院の看護師にインタビューをしました。どの病院でも働き方改革に取り組んでいた時期で、仕事とプライベートを両立し、いかにいい人生を送っていくのか。ほかの病院の事例を城西病院にも取り入れ、すぐく勉強にもなったし、刺激にもなりました」と振り返る。

若い看護師たちに「看護という職業を選んだのだから、その仕事に誇りをもって全力で取り組んでほしい」とエールを送っていました。

2024年6月28日

